

2019年度 多摩大学インターゼミ(社会工学研究会)  
サービス・エンターテインメント班

# 大都市郊外型高齢社会のコミュニティ形成への挑戦

～高齢者の社会参画を促進する地域づくりプラットフォームの構築を中心に～

大学学部生 : 上岡萌絵・平山佳苗・佐保尚寿・久保玲二・  
渡邊友裕・藤田功希・石川光一・金東玟・田中千尋  
大学院修了生 : 新部均・服部吉晶・追分健爾・葛生善江・中村晶子

指導教員 : 杉田文章・安田震一・巴特尔・李崗

# 問題意識

## 〔 昨年の研究から 〕

百貨店が衰退し、SMが出現し隆盛を極めている

→ 多摩地域全体が「低額でのんびりした時間を過ごす」

ライフスタイルであることが推察された（ 貧困化、孤立、孤独 ）

生きがいや  
役割意識の  
喪失

まずは  
社会参画、役割取得

高齢者を含む住民が参画できるプラット  
フォームが必要

# AARPについて

…独自のシンクタンクを持っており全米の高齢者に関する調査研究データを新しいプロジェクトやサービスの開発に繋げている

**AARP** (全米退職者協会)

## 「与えられる側から与える側へ」の理念

- AARPは、単に仕事を終えた高齢者を「医療や福祉サービスの対象」とするのではなく、「社会をともに支えるパートナー」としてとらえている

### アメリカ

- 歴史的な街づくりの中心に **教会** の存在がある
- 互助が必要

### 日本(特に大都市郊外)

- 都心から放射状に伸びる  
鉄道各駅をコアとして機能面  
を優先した設計
- 生活の利便性は重視されるが、  
住民同士の関係は希薄

# 仮説

~~ゲマイン  
シャフト~~

~~地縁・血縁~~

重厚長大高度成長

~~宗教~~

~~食と農~~

社会をつくる素材としての  
「スポーツ」

大都市郊外

高齢化

アメリカにおける「まちづくり」では  
宗教が主導しており、  
必ず街(≡コミュニティ)の中心に  
教会の存在がある

中国・1人あたりのGDP 1万ドル超  
↓  
個人旅行、ハイエンド旅行者  
↓  
観光産業、DMO

高度観光人材

蘇生感と生きがいに満ちた充実した地域

① 共同体・つながり(ソーシャルキャピタル)  
の創造

② ①を基盤とした役割取得

AARP(全米退職者協会)

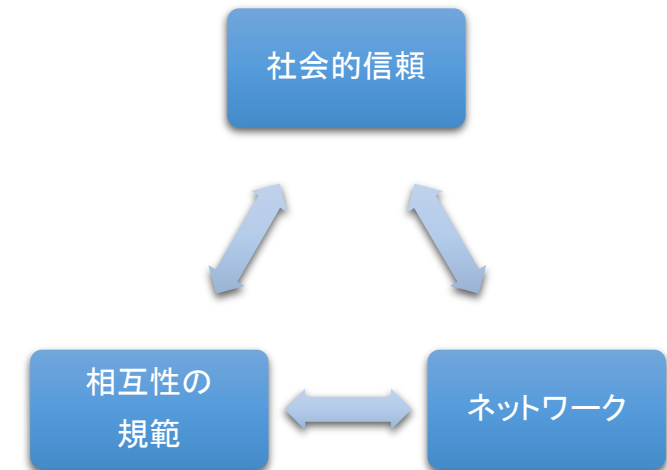
**【理念】**

与えられる側から与える側へ  
仕事を終えた高齢者を「社会  
を共に支えるパートナー」として  
捉えている

# ソーシャル・キャピタルは必要不可欠

- 「孤立した人をつくらない包容力のある社会」や「円滑で信頼できる社会」と深く関係している
  - ソーシャル・キャピタルの欠如は「有能な社会的存在」としての価値を失う
  - 「厚いソーシャルキャピタル」と「伝統的文化・歴史」とは関係している
    - ・・・多摩地域にはない。(地域への帰属意識が希薄)
- 既存の社会的資本に頼ることは難しい

善後策として「スポーツ」に着目



## ボンディング型SC

血縁関係や民族的関係のような「強い信頼関係」と結びつきを保つ垂直的な社会関係

## ブリッジング型SC

架け橋のような、緩やかな信頼とつながりで結びついている社会関係

# 社会の素材としてのスポーツの力

**まずは** 孤立を解消するために、「つながり」を創造し役割取得を達成

## 【スポーツの特性と社会的効果】

1. 「普遍性の高さ」+「多様な関わり方」→ 他者との豊かなコミュニケーション構成
2. 助け合いの心や他人への敬意を育む場 → 「向社会的行動の普及」
3. 他国との対戦となれば自国を応援する→ 「帰属意識の醸成」
4. 対戦相手や外部組織と交流 → 新しいつながりをもたらす (ブリッジング型SCの創出)

■スポーツの〈社会的効果〉については様々な視点から研究が進んでいる

編著: 仲澤眞・吉田政幸(ミネルヴァ書房、2017年)『よくわかるスポーツマーケティング』  
堀繁・木田悟・薄井充裕(東京大学出版会、2007年)『スポーツで地域をつくる』より 6

# 研究方法

## 1. 文献研究

橋本純一『スポーツ観戦学』(世界思想社、2010年)、杉本厚夫『スポーツファンの社会学』(世界思想社、2001年)など先行研究のレビュー。

## 2. フィールドワーク

「サッカー」「バスケットボール」「自転車競技」に焦点を当て、「スポーツ」がソーシャルキャピタルの形成にどのように寄与しているかを考察。

- リーグは: 地域に根差したクラブチームの運営を行っている実例を調査するため、筑波大学の仲澤眞准教授の研究室へのヒアリング。
- バスケットボール: Bリーグチーム「東京八王子ビートルズ」の関係者へのヒアリング。
- 自転車競技: 多摩地域がサイクルツーリズムの受け皿となる環境であるかを検証するため、八王子にあるサイクリスト向けのカフェ「ROADREST」へ現地調査。

# 研究の全体構成

## ■ スポーツがひとをつなぐ可能性の検討

- ・スポーツ観戦行動研究 (杉本・橋本文献)
- ・リーグ観戦文化研究 (仲澤文献、ヒアリング)
- ・八王子ビートルインズの事例 (ヒアリング)

## ■ 「参画型」スポーツが社会的役割を創出する可能性の検討

- ・高齢者がスポーツ文化を支えるという参画方法が可能か
- ・来訪者の受け皿としての「社会的役割」が生成される可能性の検討
- ・ボランティアがソーシャル・キャピタルの寄与に起因できるかの検討



# 1. スポーツ観戦型 コミュニティ形成

「スポーツ観戦行動」がソーシャルキャピタルを形成する可能性について

## 帰属意識の創出

チームと選手たちへの強い関心と応援が  
他者と「強く繋がっている」という感情に繋がる

## 愛着のある「場」の醸成

スタジアムは多くの人々にとっての  
トポフィリアの源泉となっている  
(自分の場に所属し、その中にいる感覚)

## スポーツ観戦

## 特有のリアリティ

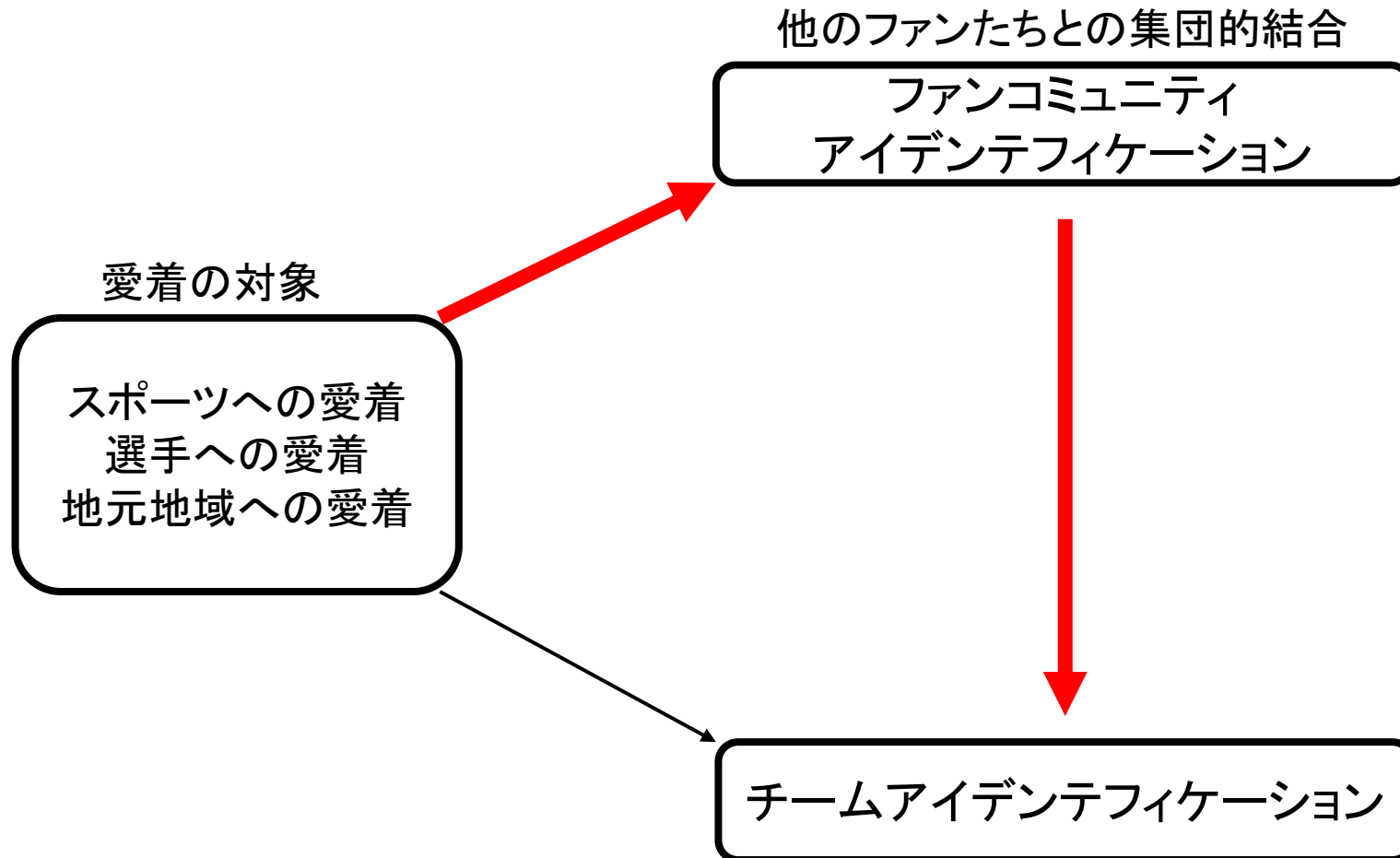
スポーツ観戦は「焦点の定まった集まり」  
→ 観客はその統制の中で興奮し没入することで  
多幸状態に至る (自然さ、気楽さを感じる)

## 社交の機会を促進

地域の伝統的なコミュニティが崩壊、  
アイデンティティが希薄な住民にとって  
「スタジアム」は手軽な社交場  
(居心地が良い、スペクタクルに満ち溢れた場)

# 事例分析1

## ひとつのクラブのファンになるということは



ただ、クラブに愛着を持つのではなく、「ファン」という存在になってクラブに関わる。

観戦者同士の関係性が生まれ、  
「ファン・コミュニティの確立」  
「ソーシャル・キャピタル形成」  
に繋がる。

# 事例分析2

## クラブが共有価値創出のプラットフォーム

- FC岐阜と徳島ヴォルティスが協力して行った「踊りコラボ」  
両チームの試合で行われた、伝統文化による異文化交流
- V・ファーレン長崎のサポーターによる高田社長の横断幕  
クラブが中心となり、サポーターとスポンサーを繋げた
- サポーターの積極的な「自治」  
サポーター参加型の地域貢献活動、入場前の列整備等
- スタジアムを中心としたサポーターからの改善案の提案  
サポーターがクラブについて考え、行動する



スタジアムで行われた阿波踊り



実際に掲げられている横断幕



スタジアムでの地域貢献活動

**地域、サポーター、スポンサーが一体となった共有価値の創出 (CSV)**  
**サポーターがクラブ価値を高めている (CSR)**

## 2. スポーツ参画型コミュニティ形成

### 機運・現状

- ・現在、サイクリングによる訪問者が来訪している
- ・オリンピックのコースとなっている

### ポテンシャル

- ・豊富な自然
- ・都心から近い
- ・観光資源

サイクリングのまちづくり

参画型スポーツの実現

関係人口の増加(SCの創出)

高齢者の役割取得(ジェロントロジー)

# 事例分析1

## 韓国Yanpeong, Paldang &しまなみ海道



図:風景(ヤンピョン)



図:風景(しまなみ海道)

### 優れている点

- レンタルサイクルの充実
- サイクリングコースの明確化
- **インバウンド対策**
- **高齢者ボランティア参画が進んでいる**

**多摩地域との類似点が見られた**

# 先行事例からの示唆

## ジェロントロジー

### ✓ 韓国Yanpeong Paldang

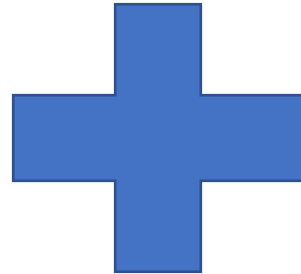
高齢者のボランティア参画(支援型)

- ・インバウンドへの対応
- ・インバウンド向けのマップ作り
- ・サイクリングコース整備・管理

### ✓ シニアゲーム大会

高齢者の参画(プレー型)

- ・サイクリングの参加あり
- ・最高齢99歳



## ソーシャル・キャピタル

### ✓ 信頼

→・目に見える報酬、利益がなくても  
貢献してくれる

### ✓ 規範

→・運営側...**機会**の譲渡  
・参加者...地域活性化への**貢献**

### ✓ ネットワーク

→・人々の**つながり**  
・「**ボンディング型**」の  
ネットワークになってしまう

スポーツボランティア役割取得とSCの創出に  
寄与するといえる

# 事例分析2

## 自転車をもちーフにしたカフェへのヒアリング



撮影者: 藤田  
場所 : ROAD REST様

### ヒアリング内容

高齢者のボランティア参画の可能性

我々のサイクリングに対する課題の方向性が正しいか

### ヒアリングでのキーワード

- ・**専門知識**が必要になるボランティア内容はNG
- ・「**する(Do)**」という参画モデルも可能
- ・**しまなみ海道**が国内で一番魅力的なツーリズム

**多摩地域でのサイクルツーリズムは可能である**

# 多摩の課題とポテンシャル

## 理想のサイクルツーリズムに必要な要素

- ✓ コースを活用したイベント開催  
→ ボランティアを活用できる
- ✓ ライトユーザー向けの仕組みを作る
- ✓ 観光スポットを回る+α型サイクル
- ✓ レンタサイクル、  
サイクルステーションの設置
- ✓ インバウンド対策

## 韓国のYanpeong, Paldangを参考



自然資源…緑  
人工的資源①…赤  
人工的資源②…ピンク  
複合資源…紫

参画型スポーツ文化の実現に  
よるコミュニティ形成が可能となる



# 結論

本研究では、「スポーツ」が地域住民の社会参画やコミュニティ形成に寄与する可能性について、観る「観戦型」と支える「参画型」の2つの側面から考察した。

1. 「スポーツ観戦行動」は、地域アイデンティティの醸成、コミュニティへの帰属意識や規範の創造だけでなく、相互性の安定や連帯感の向上にも寄与する。
2. 「スポーツ参画型」では、スポーツボランティアを通じてソーシャル・キャピタルを創出する可能性はあることが確認できた。

しかし、多摩地域でサイクルツーリズムを発展させるためには、地域全体での自転車文化への理解やインフラ整備、インバウンド対策などが課題としてあげられることが確認できた。

以上のように、伝統的文化や歴史、住民同士のつながりが希薄である多摩地域において、孤立した住民をつなぎ新しいコミュニティを創出することを考える際、「スポーツ」は有効な方策として大いに期待できるといえる。

# 参考文献

- 寺島実郎 『ジェロントロジー宣言:「知の再武装」で100歳人生を生き抜く』 NHK出版、2018年
- 寺島実郎 『シルバー・デモクラシー戦後世代の覚悟と責任』 岩波新書、2017年
- 寺島実郎 『新・観光立国論モノづくり国家を超えて』 NHK出版、2015年
- 寺島実郎 『何のために働くのか、自分を創る生き方』 文春新書、2013年
- 稲葉陽二『ソーシャルキャピタル・入門』、中公新書、2011年
- 仲澤眞・吉田政幸編著『よくわかるスポーツマーケティング』、ミネルヴァ書房、2017年
- 堀繁・木田悟・薄井充裕編著『スポーツで地域をつくる』、東京大学出版会、2007年
- 木田悟、高橋義雄、藤口光紀 『スポーツで地域を拓く』 東京大学出版会、2013年
- 三浦展 『第四の消費』 朝日新聞出版、2012年
- 内閣府 『高齢社会白書』（2018年度版）<<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>>
- 橋本純一 『スポーツ観戦学～熱狂のステージの構造と意味』 世界思想社、2010年
- 橋本純一 『現代メディアスポーツ論』 世界思想社、2002年
- アラン・ブライマン 『ディズニー化する社会』 明石書店、2008年
- G.リッツア 『マクドナルド化した社会』 早稲田大学出版部、2012年
- 「多摩地域が一体で取り組む観光地域づくり-取り組み報告と今後の取り組み方針について-」(2017年度)、東京都市長会  
<<https://www.tokyo-mayors.jp/katsudo/pdf/tamastukurikankyoudukuri2018.pdf>>
- 多摩地域データブック 2016年度版 <[http://www.tama-100.or.jp/contents\\_detail.php?frmId=675](http://www.tama-100.or.jp/contents_detail.php?frmId=675)>
- 塚田修一、西田義行 『国道16号線スタディーズ 二〇〇〇年代の郊外とロードサイドを読む』 青弓社、2018年

- ・ リンダ・グラットン／アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT』 東洋経済新報社、2016年
- ・ 西崎信男 『スポーツマネジメント論～プロ野球とプロサッカーの経営学～』 税務経理協会、2015年
- ・ 生方幸夫 『リーグの経済学』 朝日出版社、1994年
- ・ 宮本恒靖 『日本サッカーの未来地図』 角川学芸出版、2014年
- ・ フェラン・ソリアーノ 『ゴールは偶然の産物ではないFCバルセロナ流 世界最強マネジメント』 アチーブメント出版、2009年
- ・ クリスティン・ヤノ 『なぜ世界中が、ハローキティを愛するのか？－“カワイイ”を世界共通言語にしたキャラクター』 作品社、2017年
- ・ バーネット・ボロテン 『スペイン内戦革命と反革命』(上・下) 株式会社晶文社、2008年
- ・ E.H. カー 『コミンテルンとスペイン内戦』 岩波モダンクラシックス、2010年
- ・ 近藤隆雄 『サービス・マーケティング[第2版]－サービス商品の開発と顧客価値の創造－』 生産性出版、2018年
- ・ 高橋義雄 『サッカーの社会学』 日本放送出版協会、1994年
- ・ 金森喜久男 『サッカー界における顧客の創造』 株式会社フロムワン、2014年
- ・ 田中和宏 (2004) 『テーマパークの動向における計量的分析』 < <http://www.econ.kobe-u.ac.jp/introduction/pdf/140514h.pdf> >
- ・ 愛知大学 経営総合科学研究所 (2008) < <https://leo.aichi-u.ac.jp/~keisoken/research/DP/DP2008-01-Kadomoto.pdf> >
- ・ 日経ビジネス 『V字回復に導いた「1日12回」の朝礼』 < <https://business.nikkei.com/atcl/seminar/19nv/00124/00001/> > 最終閲覧日:2019年6月4日
- ・ NEWSポストセブン 『ピューロランド黒字化 中華圏女子のハローキティ人気後押し』  
< [https://www.news-postseven.com/archives/20130609\\_193176.html](https://www.news-postseven.com/archives/20130609_193176.html) > 最終閲覧日:2019年6月4日
- ・ 高島国男 『サッカー狂の社会学－ブラジルの社会とスポーツ』 世界思想社、2003年
- ・ 杉本厚夫 『スポーツファンの社会学』 世界思想社、2001年

# ご清聴ありがとうございました

2019年度 多摩大学インターゼミ(社会工学研究会)  
サービス・エンターテインメント班